



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第十八号〜

白露 はくろ

九月八日

抜穂祭

酷暑と呼ばれる今年に残暑も厳しいですが、旧暦を見れば七月二十七日。昔ならまだ七月末だから仕方がないと妙に納得したり、なぐさめたり。けれど、夏休みも終わり、学校も始まりました。そろそろ夏休み気分を引き締めたいところです。

今年も無事に米が実り、稲刈りが次々に行われています。楠部の神宮神田でも九月四日が抜穂祭。鳥居前の田んぼでは、実りに感謝し、穂の熟した稲を抜き取る神事が行われました。

うるち米、餅米合わせて毎年十五トンほどを収穫する神宮神田では、多くの品種を育てているのが特徴です。ふつうの田んぼではコシヒカリがほとんどですが、神宮神田ではコシヒカリは栽培せず、チヨニシキ、イセヒカリ、みえのえみ、キヌヒカリなど、三重県の奨励品種を育てています。一つの品種の方が育てやすいように思うのですが、多品種を育てることは神さまに奉げる米の全減をふせぐためと、刈り遅れのないようにするためだと神宮神田を管理する作長から教わりました。米を収穫すると、乾燥させ、もみすりをする一連の作業があり、三ヘクターもの広大な田をもつ神宮神田では多忙を極めます。品種が異なると、収穫の時期もずれ刈り遅れがありません。品質を保つことから多品種を育てているのです。

そして神さまに供える抜穂の束を作るのは、伊賀上野の敬神婦人会の方たち。毎年、神田で奉仕するのが慣わしとなっています。

神宮神田では、しばらく刈り入れが続きます。

文 千種清美

